



ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局
VOL73 平成27年4月

平成27年度 医療法人 社会福祉法人 真誠会 入社式



大化の改新、明治維新 そして 医療福祉改革

社会福祉法人 真誠会 理事長 小田 貢
医療法人 真誠会

日本の大きな革命には「大化の改新」や「明治維新」がありますが、私にはそれにもならず革命というのが今回の「医療福祉改革」だと思います。

医療部門の改革では、地域医療計画があり各地域では大学病院などの基幹病院を中心として病院の機能分化が行われますが、その結果今までの並列乱立型から機能分化にもとづくピラミッド型、ヒエラルキーを形成するようになるようです。

今では急性期のベッドを持っていることが病院の象徴でもあります。厳密な意味で急性期ベッドを回転させれば、現在の日本全国の救急ベッドはたぶん半分ぐらいしか必要なくなるのではないのでしょうか。

たとえ中位、下位にある病院が救急ベッドを維持しようと思っても上位の病院が救急医療を必要とする患者をブラックホールのように吸い込んでしまうので中位、下位にある病院には救急患者は回ってこなくなり、結果として急性期病棟を維持できなくなるのではないのでしょうか。

福祉分野では、社会福祉法人が法外な内部留保をしていることが批判され、社会福祉法人は儲けすぎているという見地から、本年4月からの介護保険の報酬を大幅に削減されました。

このような状態で社会福祉法人が生き延びるためには、レベルの高い介護体制、介護サービス、高い在宅復帰率、そして良い結果を出すことに対してインセンティブとして「加算」という少しばかりの報酬の追加があり、このハードルをクリアしなければならないのです。

次頁へ続く➡

そしてこれらの「加算」がもらえるレベルの高い介護を提供できなければ社会福祉法人といえども経営が危うくなるのです。

それと同時に内部保留が膨大な社会福祉法人にはその資金を社会の福祉に投資したり、高齢者の支援のために役立てるよう指導を受けることになるようです。

また介護予防事業、通所事業はそれだけでは経済的に立ち行かないほどの報酬の減額になります。要するにこれから介護保険は、要支援には適応されず、要介護からのみ適応されるようになるということだと思います。

そのためこれから一年以内に多くの小規模法人、介護予防事業所、小規模通所事業所は経営の危機に直面し、ここでも弱小事業所、質の低い事業所は淘汰されて行くと思います。

以上の政策の結果、平成 30 年ごろには医療、福祉の世界は今とは比較にならないほどの変化をきたしていると思います。

これを医療福祉の大化の改新、明治維新と言わずしてどのように表現できるでしょうか。

介護老人保健施設 ゆうとぴあ施設長 就任ご挨拶

～皆様と共に歩む老健施設を目指して～

このたび、老健“ゆうとぴあ”の施設長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。これまで、鳥取大学医学部、特定医療法人同愛会で勤めて参りましたが、このたび小田理事長先生にご縁をいただき、“ゆうとぴあ”に勤務させていただくことになりました。

私は松江市に生まれ、本籍の和歌山県で田舎暮らしを体験しました。小学校中学年～高校時代を大阪府堺市で過ごし、大学時代から山陰に住み着いています。帰省本能が働くのでしょうか？生まれ故郷の近くに帰り、はたまた、新婚時代を過ごした浜河崎の近くに勤務することになりました。

私は“創ること”が大好きです。これまで多くの新しい組織、箱物、庭園などを“創って”きました。料理を“創る”ことも大好きです。大学勤務時代にそろえた調理道具一式を持参いたしました。いつか皆様に味わっていただける日を夢見しています。

組織を見直しながら“創造”していくには、改革を伴います。血を見るような革命であっては いけません。みなさまのご意見を伺いながら、職員や利用者の皆様にとって、よりよい老健の“創造”に邁進したいと思います。今後とも皆様のご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。



介護老人保健施設ゆうとぴあ
施設長 井上 貴央

介護老人福祉施設 ピースポート施設長 就任ご挨拶

～新人です。よろしくお願いいたします。～

はじめまして、この度、施設長を拝命しました上村です。長い間、行政で勤務してきました。医療・福祉の世界には縁が深いほうではありませんが、この世界が大変革の時代を迎えていることは理解しているつもりです。これからは、地域の方々との協力が欠かせないものとなっていきます。施設利用者の方々、在宅で医療・介護を必要とされている方々に、地域が一体となって支援できるような地域づくりをしていきたいと思っています。

個人的には、社会人としての再スタートとなります。新人ですがよろしくお願いいたします。



介護老人福祉施設ピースポート
施設長 上村 真澄

医療法人・社会福祉法人 真誠会 看護・介護統括部長 就任ご挨拶 ～着任にあたり～

鳥取大学医学部附属病院を退職し 4 月 1 日付けで着任しました。新入職員 25 名とともに 4 日間のオリエンテーションを受け、真誠会の理念・基本方針を理事長自ら説明をしていただき地域医療、福祉への信念を理解しました。中でも日野原先生の「患者さんへのケアは水が器に添うように患者さん一人一人によって個別的であり固有なものでなければならない」という言葉のもと、日々、看護・介護に尽力されていることも知ることができました。

また、私のこれまで行ってきた看護や管理のあり方を振り返る必要性を考える機会となりました。看護と言う仕事を続けるにあたり真誠会という地に変えて、「添う」を大切にしていきたいと思えます。

そのためにも職員のみなさんのニーズを一日も早く把握し今よりももっと、働きやすい職場、やりがいのある仕事ができるように頑張る所存です。

皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



医療法人・社会福祉法人 真誠会
看護・介護統括部長
俵 智恵美

介護老人福祉施設 ピースポート看護師長 就任ご挨拶 ～新天地での信頼構築をめざして～

私にとって 20 年ぶりの新天地。現在 61 歳です。頑張らないと覚えられない年齢になりました。前施設の特養を 61 歳で退職し、今年度から医療法人・社会福祉法人真誠会に入職させていただきました。桜の花に迎えられ、そしてホスピタウンの温かい雰囲気の中で入社式を開催していただき、新任研修では、真誠会が地域包括ケアシステムに先駆けて取り組み、邁進しておられることを理解しました。同時に、その一員として一生懸命努めてまいりたいと決意いたしました。法人の理念である愛と謙虚さをもとに誠実で心に響くケアを提供するために、これまでの経験を生かすことができればこの上ない光栄と思っております。趣味の山登りで体力維持と気分転換を図りながら、まだまだ頑張るつもりです。ご利用者様とご家族様をはじめ皆様方に信頼していただけるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



介護老人福祉施設ピースポート
看護師長 亀澤 正子

平成26年度 第3回 (38期)

認知症介護指導者養成研修報告

私は、平成 26 年 12 月 1 日～12 月 19 日・平成 27 年 1 月 26 日～2 月 6 日までの約 5 週間、職場研修 4 週間、鳥取県の推薦を受け認知症介護研究・研修仙台センターで認知症指導者養成研修を受講しました。同期生は 15 名で、他県の推薦者とともに、認知症指導者として学んできました。

この研修へ応募した動機ですが、認知症高齢者数は、4 人に 1 人という有病率ですが、適切な治療を受けている方は、半数以下だと言われています。当法人通所サービス事業所で実際に認知症の診断や治療を受けている方は全利



用者の約 10% でした。このことから、高齢者介護の質の改善や認知症介護サービスの充実を図ること、早期発見や治療に結びつけることは重要な課題と考え、認知症指導者研修を要望しました。

今後の活動としては、認知症介護指導者として、鳥取県の実践者研修・リーダー研修の講師・企画者として活動をおこなっていきます。認知症ケアについての様々な問題を皆様と一緒に考え、支援に努めさせていただきます。



医療法人 真誠会
看護部 副看護部長 代理
佐平 登志美

名誉顧問称号授与式 ～小田理事長より感謝状が贈られる～

長田先生には、27 年前に真誠会を立ち上げた時に、当時は医療福祉の町ホスピタウンを造る構想はなかったので、苦しい立場に立たされたことがありました。その時に、鳥取県の医師会長をしておられた長田先生に具体的に相談にのっていただき大きな逆風から支えていただきました。現在の真誠会があるのは、長田先生の庇護、優しい思いやりがあったからであります。本日は、名誉顧問としての感謝状を贈らせて頂きます。



医療法人真誠会 名誉顧問
母と子の長田産科婦人科クリニック 理事長
長田 昭夫 先生

長田先生よりご挨拶

この度、このような名誉顧問という立派な立場として、感謝状をいただき大変恐縮しております。

入社式にあたり、米子を引っ張って活躍されているトップクラスの理事の方々も勢揃いして参列しておられ驚きました。若いフレッシュな新入職員もたくさん入社されました。真誠会は、弓浜地区にもたくさんの老人施設を建てておられます。

このように真誠会が発展されたのも小田先生の経営力、指導力があってこそ、今日に至るのだと思います。

日野原先生は日本で、世界でも有名な方ですが、真誠会の名誉理事長でもあります。

本日は、入社される方々に夢を持っていただけるような盛大な入社式です。新しく医師、部長、課長さんも入社され更に良い職場になられると思います。人と人とのつながりが最も大切なことです。縦にも横にもつながりを大切にしながら更に成長されることを期待しています。

平成27年度 医療法人・社会福祉法人真誠会

入 社 式

** 小田理事長入社式 挨拶 **

【原点回帰】真誠会創業の理念と日野原先生の理念に沿った教育の充実

今日はあいにくの雨模様での入社式ですが桜が咲いて皆さんの門出を迎えられたと思います。真誠会はどの施設も桜が植わっています。一つには、季節を患者さんに感じていただきたい、そして、一年の区切りとして春を迎え生きている喜びを感じていただけたらという思いを込めて植えています。

約 20 年前は、介護も専門職は少ない時代でした。今では、約 8 割が有資格者であり、男性の専門職も多く入社されています。この業界は大きく様変わりしています。以前は、3K「きつい(重労働)」「汚い(排泄物を扱う)」「危険(病気の感染)」と言われていました。

これからは、4K「きれいな職場」「きれいな心」「規律ある仕事」「規則的な生活」をキープしていかないといけないと思います。

国家の財政は厳しくなっており、今年の介護報酬改定では、とても厳しいものがあります。普通通りのことをしていたら、介護報酬は少なくなり経営が悪化してきます。厚生労働省が言われていることを実践してクリアしていかなければなりません。

真誠会では、「アセッサー(評価者)」の合格者 30 名を出しています。キャリア段位制度において介護プロフェッショナルとしてのレベル認定を受けるためには、各事業所ごとに職員の実践的スキルを評価する「アセッサー(評価者)」が必要です。アセッサーになるためには、必要な講習を修了し、登録される必要があります。

30 名の合格者数は、鳥取県の中では真誠会がほとんどを占めており、大変誇れるものです。無資格で入った人も資格取得を目指し、事業所長、先輩から良き指導を得て努力をしてください。

医療法人真誠会 名誉理事長 日野原重明先生(聖路加国際メディカルセンター理事長)は、2005 年に文化勲章を受章され、現在 103 歳です。若い時に苦勞することが大切だと言われています。先生は、行動の原点は「三つの V」であると言われています。Vision(将来を見据えた、大きな展望)、Venture(未来を拓く勇氣ある行動)、Victory(ビジョンを描き、勇氣ある行動をすれば、いつか夢を手にできる)。常に三つの V をもち、人生に臨んで欲しいと思います。中でも、勇氣ある行動は大切です。行動なくして夢は手に入りません。

今年は、原点回帰、本来の理念を強くアピールして真誠会理念、日野原先生の理念でもある「いのちの教育」を行っていきたいと思います。



入社式の恒例の行事です。これからガラス玉を回してもらいます。高齢者は目を離したら一瞬の間に命を落としてしまう事故が起きる可能性があります。このガラス玉を人の命と考えて両手で大切に抱えて次の方にきちんと声掛けをして丁寧に渡してください。

平成26年度青年社会活動コアリーダー育成プログラム 国際福祉交流会 in YONAGO

社会福祉法人 真誠会 理事長 小田 貢
医療法人 真誠会



一昨年「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」として外国からの交流スタッフを米子に迎え、武道館にて和田町の有志の皆さんが「和田で綿づくり」プロジェクトなどの発表をしました。

昨年はこの交流事業として真誠会スタッフの山根賢一さんが日本代表団の一員としてヨーロッパを10日間に渡って視察して帰りました。その後、今度は再びヨーロッパから視察団13名が日本を訪れ、その流れの中で鳥取県、そして米子を視察することになりました。一行は弓浜ホスピタウンを訪問し交流会が開会されました。交流会は荒神太鼓で幕開けしましたが、外国のみなさんは荒神太鼓にすっかり魅了されたようでした。

その後、一昨年発表した和田町自治連合会長の田邊忠雄氏が同じ和田町の前島勇氏の通訳で発表され、お客様に高く評価されました。その後一行は和田の外浜ホスピタウンを見学し、その後米子ホスピタウンに場所を移し意見交換をしました。

意見交換は三つのテーブルに分かれ、それぞれ異なったテーマで意見交換をしました。

私自身は米子ホスピタウンでの意見交換から参加しましたが、各テーブルでは和田町のみなさんも、真誠会のスタッフも外国からのお客様に臆することなく介護のシステム、介護士の教育、高齢者の生活、社会保障、などなどについての意見交換はとても盛り上がり止まりそうにもありませんでしたが時間切れとなり終わりました。最後は日本側スタッフが一列に並んで全員の皆様と握手をして別れを惜しみました。そして真誠会の前で、各国の国旗をふり、お互いに見えなくなるまで手を振って感動的なお別れでした。

今回の意見交換で改めて確認できたことは、国の制度、言葉は異なっても高齢者に対する気持ち、仕事上の悩みなどは私たちと変わらないこと、そして福祉先進国の北欧と比べても日本の福祉制度、そして内容も決して北欧に劣るものではないこと、そして北欧の皆さんも日本から学ぶことが沢山あったということはとても重要な発見であり、私たちは改めて日本の福祉をさらに進化させたいという強い気が湧いてきました。そしてまた今回の交流は小さい交流ではありませんでしたが、単に福祉に関する意見交換だけではなく、お互いの国を理解し合える大きなチャンスであり、民間が行った有意義な国際交流だったと思います。

平成26年度青年社会活動コアリーダー育成プログラム 国際福祉交流会 in YONAGO 和田地区住民代表発表



「和田の高齢社会の取り組み」
住民代表として和田町自治連合会長の田邊忠雄氏が同じ和田町の前島勇氏の通訳で地域の取り組みを報告し、住民が主導している活動の理解を深めました。そして地域住民との連携について学びました。



施設見学風景

弓浜支え愛センター



伯州綿で干支の羊を展示。
地域の力が最大限に発揮
されている。Wonderful!



グループホーム椿庵・桜庵

一瞬にして
心が通い合いました

グループレクリエーションで
ことわざや季節の歌で
拍手喝采

複合型サービスふる里



握手と国旗で
お見送り



平成26年度青年社会活動コアリーダー育成プログラム 国際福祉交流会 in YONAGO

意見交換会 <抜粋>

テーマ「地域づくり」【認知症の方を支える地域づくりに必要なことは】



デンマーク

- 「認知症の方に注意を払う、理解を深めるように」という風土がある。
- 「社会の人々との関わり」というところまではいっていない（コミュニティで支えるところまではいっていない）。
- 認知症の本人、家族等、直接の関わりがある方が語ることはあるが、それ以外の方はそこまでいっていない。
- 現在、小規模の施設から大規模の施設へと変わっていている。そのため、遠くの施設まで行かなければならない。大規模なものは良いが、個人の希望を1つ1つ叶えることは困難。小規模が本来必要なことに政府も今後気がつくはず。大規模な施設に転換したのは、国の財政状況にある。
- 本人が自分の意思決定を行っている（個人という考え方）。しかし、限界があることも事実。今までのライフスタイルの継続を。本人も意思決定のプロセスに参加していく。本人の力を奪わないという倫理観。
- デンマークの施設は、鍵をかけている。日本の警察やタクシーなどの協力を取り入れた街づくりは、本来のあるべき姿だと思う。
- 共働きが多い。親と同居するというのは少ない。夫婦の片方が仕事をせず介護を行なうというのは難しい。（税金が高いこともネック）
- 自分の父が認知症となり介護を行っていた。父は多くを語ることはできない状態であったが、自分の今後についてみんなが相談していることが分かっていた。どんなに認知症が進行していても理解することは出来る。言葉として語る事ができないだけだということを知っていることが大事だと思う。
- 和田で見た、100歳の方。重症であっても社会と切れないように自宅から通っている。デンマークでは、重症になると施設の中で過ごすだけで社会との交流はなくなる。和田で見た100歳の方の笑顔・表情が素晴らしい。和田で

見たあの状態が、本来のあるべき姿なのだと思う。日本の取り組みは、進んでいる。

- 介護している職員が素晴らしい。プライドと誇りを持っている。自国の職員にもプライドと誇りを持ってほしい。
- 和田の取り組みは、小学生までだけでなく高校生等大きくなってからの教育も出来ると良いと思う。

イギリス

- 認知症の方が地域で暮らすことを重点にしている。
- 首相が2020年に向けての課題を出した。2012年にいくつかの自治体で認知症の方に優しい取り組みを始めた。これは、オレンジブランの日本の認知症サポーターを取り入れたかもしれない。
- 大きな企業が認知症教育に参加し始めている。認知症学校があり、認知症の方自身が自分の現状について語る場を設けている。大学の単位にもボランティア制度があり、企業の入社採用にもボランティア歴が配慮されるなどの制度がある。

ドイツ

- イギリスと比べ認知症に関する取り組みが進んでいるとは言えない。
- 16の州があるが、代表がディスカッションし行動計画を立てている途中で、NPOの代表が話し合いを行なっている。実行されるのはこれからの状態。
- 認知症になる前に本人が契約し、今後についての決定を行っている。（誰に代わりに決定してもらうのかを）。
- 認知症の注意喚起として自己決定を促すための広報を、国営テレビを通じて行っている。自己決定について必ずしも進んでいるわけでもない。

まとめ

- 日本の良い部分をイギリスに取り入れたというような話が出た。（オレンジサポーター）今後も、それぞれに良い部分は取り入れ、各国の認知症高齢者が安心して地域で暮らしていけるようになれば良いのではないかと。
- 認知症の方に必要な環境は、「優しい街づくり」が、各国からの共通の言葉であった。
- 認知症であっても自己決定が出来る能力はある。認知症を正しく理解していくシステム教育が必要である。
- 優しい街づくりには、ボランティア制度は必要である。

地域包括ケアステーション設置される

真誠会では平成 24 年春に、真誠会米子、弓浜、米子中央ホスピタウンに地域包括ケアセンターを作りましたが、このたび平成 27 年 4 月をもってこれらを「地域包括ケアステーション」として生まれ変わり、本格的な地域包括ケアの推進に役立てることになりました。

地域包括ケアは、市民レベルはもちろん行政レベルでもその具体的な行動に対して模索レベルではありませんが、ステーションとして生まれかわることで、地域と行政等の関係者をつなぐ役割を担うことで、この地域包括ケアが少しでも市民によく理解され、ケアへの参加に役に立ちたいと思っています。

米子地域包括ケアステーション

米子市河崎555-2

TEL:48-0300

米子中央地域包括ケアステーション

米子市西福原8丁目16-66

TEL:30-3917

弓浜地域包括ケアステーション

米子市大崎1511-1

TEL:48-2335

在宅医療連携拠点事業Cosmic Link

平成 26 年度 活動報告

在宅医療連携拠点事業は、地域住民が住みなれた地域で生活することを支えるためには、医療・介護にまたがる様々な支援を提供する必要があります。地域の医師、歯科医師、薬剤師、看護職員、ケアマネジャーなどの医療・介護に関わる多職種協働による在宅医療の支援体制を構築し、地域における包括的かつ継続的な在宅医療の提供を目指すことを目的とした事業です。

平成 26 年度は、以下の 3 つの内容を重点に展開しました。

【効率的な医療連携のための多職種連携】

・平成 26 年度版「医療連携ガイド」の作成

関係機関のご協力のもと、平成 26 年度版（第 4 版）「医療連携ガイド」を発行しました。平成 26 年度版では新たに「医療機関（病院）」と「複合型サービス事業所」の事業所項目を追加しました。在宅医療拠点事業 CosmicLink ホームページにて、インターネット版、印刷用のダウンロード版を掲載しております。

【在宅医療に関する地域住民への普及啓発】

・在宅医療についての講演

米子市内の公民館大学などで在宅医療についての講演会を行いました。

演題：「我が家で自分らしく生き、暮らし続けるために
～在宅医療とは～」

講師：真誠会セントラルクリニック 小田 貢 院長

4 月 25 日（金）崎津公民館 7 月 3 日（金）和田公民館

7 月 13 日（金）富益公民館 8 月 21 日（木）永江公民館

11 月 20 日（木）夜見公民館

【災害発生時に備えた対応策の検討】

・平成 26 年度鳥取県原子力防災訓練 避難行動要支援者避難訓練実施

平成 26 年 10 月 18 日（土）島根原子力発電所にて事故発生の想定のもと、鳥取県原子力防災訓練が行われました。入院施設における避難訓練として、真誠会セントラルクリニックが参加し、行政、救急隊、自衛隊、鳥取市の入院患者の受け入れ病院と連携をとり避難訓練を実施しました。米子市から鳥取市への避難移動は C-1 輸送機にて行いました。

訓練の実施内容や課題について報告書にまとめました。

平成 27 年度は、在宅医療連携拠点事業の最終年度となります。4 年間実践してきた事業をまとめ、地域の皆さんと展開してきた「地域包括ケアシステム」のモデルがお示しできればと思っています。



検査科の新たな取り組み

～頸動脈超音波検査(頸動脈エコー)～

セントラルクリニック検査科
木村 尚美

セントラルクリニック検査科は、臨床検査技師 3 名で外来・入院患者様の各種検査や、人間ドック・健康診断等の業務を行っています。

現在、新たな業務への取り組みとして、頸動脈および心臓のエコー検査についての研修を受けています。

頸動脈エコー検査は、首にエコーを当てるだけで痛みや被爆もなく短時間でできる検査です。近年、生活習慣病による動脈硬化が原因となる疾患(脳梗塞、心筋梗塞など)が増加していますが、頸動脈は動脈硬化の好発部位であり、頸動脈を観察することで全身の動脈硬化の進行を把握することができるといわれています。高血圧・糖尿病・脂質異常症などの既往のある方や喫煙される方などはぜひ一度検査を受けられることをお勧めいたします。

料金：2,190 円 (3 割負担の場合)

問い合わせ先：真誠会セントラルクリニック 受付 0859-29-0099



訪問看護実習報告

訪問看護ステーション ネットケア
看護師長 神田 典枝

ネットケアは実習受け入れ機関として、看護学生をはじめ実習の受け入れをしています。はじめは訪問看護に興味がなかった学生の方が実習を通して「訪問看護に興味を持ちました」「いずれは訪問看護をしてみたい」と話してくれたこともあります。

「訪問看護」というとなかなかイメージしにくいかもしれませんが、利用者様一人ひとりと向き合う時間があり寄り添っていくことのできる看護であると思っています。

「今日は誰が来てくれるのかと思っていたの」と訪問を待っていてくださる利用者様、「来てくれてよかった」と訪問を必要としてくださる利用者様。

思いがけないことが起こっていることもあるのですが、利用者様と共に笑いあうこともたくさんあります。

「訪問看護をされていてよかった」と思えるような訪問看護を私たちと一緒にしませんか？



平成26年度 訪問看護実習

1	鳥取大学医学部保健学科	10人
2	米子医療センター	6人
3	米子北高等学校看護科	8人
4	鳥取県看護協会(訪問看護職員養成講習会)	2人
5	福岡看護専門学校	1人
6	その他、 鳥取大学医学部4年生地域医療体験・1年生早期体験 鳥取大学医学部保健学科 老年看護学実習	



辻田耳鼻咽喉科 院長
辻田 哲朗

完走したぞー!

3月15日に鳥取マラソンがあり、2回目の挑戦をしました。去年初めてマラソンにチャレンジしたのですが、練習不足がたまって30kmで無念のリタイアとなっていたのです。その時はマラソンの神様から「お前はマラソンを舐めとる。ちゃんと練習してから出直せ!」ときついお叱りを受けた気がしました。そこで1年かけて練習して今度こそと再チャレンジしたのです。マラソンを経験された方はわかると思いますが、スタート前は特に緊張するわけ

でもなくまるで遠足に行く小学生の気分になりどこかワクワクしてしまいます。今回は去年リタイアした30kmまでは順調に走れたのですが、その後足にきてしまいガクンとスピードが落ちてそこからゴールまでは歩いているのか走っているのかわからないくらいになり、へロへロになりながらそれでもなんとかゴールまで辿りつけました。テレビでマラソン中継を見てるとよく35kmからが本当の勝負だとよく言って「フーン、そうか」位にしか思ってなかったのですが、走ってみてなるほどと実感しました。但し素人の場合は30km過ぎてからが本当のマラソンです。ゴールの陸上競技場付近まで来ると周りに沢山の人が出迎えてくれていて、感極まって思わず泣いてしまいました。時間5時間30分55秒。マラソンランナーからするとなんてことない記録ですが、ボクにとっては一生の記念です。ところがマラソンが終わって何日かすると、今度は一度も歩かずにゴールしたいとの思いが湧いてきて、次のマラソンに向けて練習を始めました。ボクのマラソン人生。まだ始まったばかりのようです。



いえはら歯科 院長
家原 猛

2015 春(独り言)

桜の季節が今年もやって来た。寒い日もあるが、いよいよ動き出すぞ〜。少々丸くなったお腹をひと叩き。今年は正月明けから坐骨神経痛に悩まされ、とにかく痛くて痛くてつらい経験でした。出鼻をくじかれた感じで出遅れてしまいましたが、同世代の「今でも皆生の鉄人」達他とBIKEを中心とした練習合宿(吉備高原)に参加して来ました。ん〜ん、いかん!いかん!

練習不足がたまって最後の最後に遅れてしまった。

20代の頃から皆生のトライアスロンに幾度となく出場し、上位完走を果たし、50代半ばを越え60代になった今でも立派に完走する人達がいる。まさに筋金入りの鉄人。また、トライアスリートでなくとも60代でフルマラソンどころか100Kマラソンに挑む女性ランナーもいる。本当にびっくりする。程があると思うが、それを可能にする足腰の強靭さ、鍛え抜かれた身体のバランスに驚く。実は走っているうちに、走ることを続けるからこそ、ある意味自然にそれができる身体に作り上げられるのである。始める年齢はあまり関係ないよう、続けることで身体は如実に変化する。所謂持久系の有酸素運動により体脂肪はしっかり燃焼する。今難敵のメタボには打って付けの対抗手段となる。同時に心肺機能の強化、足腰や体幹の筋肉、靭帯、骨の強化にもなる。年と共に足腰から衰えると言われる対抗手段でもある。きっと最も大切なことは継続すること。Swim(水泳)、Bike(自転車)、Run(マラソン)、近年は年齢的に、また良い友人がいてHike(俳句も良いがここでは山登り)が加わってきた。いつまでもスポーツを楽しめる自分でありたいと思う。小太りじいさんはこつこつ怠けずトレーニング!

平成 26 年度 各種専門資格 合格者報告

各種資格取得のために「きっと勝つの会」を開催し、法人全体で受験者のバックアップを行っています。前有資格者が主となり、受験者に対してアドバイスをしたり、模擬試験を実施して自分の実力を理解し、合格に向けて勉強会を行っています。

社会福祉士 合格者 2名



セントラルレジデンス
管理者 赤井 康人

私が苦労したことは、前半は幅広い項目を満遍なく覚えることで、後半はそれを忘れていく自分の記憶力との闘いでした。来年度のアドバイスとしては、試験時間は想像以上に短く、分からない問題で躓くとあっという間に時間が無くなります。マークシートには仮でも良いのでとにかく答えを塗りつぶしておくべきだと思います。



ケアハウスリバーサイド
米谷 正

過去3年間の試験問題を中心に猛勉強をしました。また、真誠会では社会福祉士の試験に向けて「きっと勝つの会」があり、一緒に模擬試験にチャレンジしたり、意見交換や悩みを相談する仲間がいてくれて励みになり合格に繋がりました。

介護支援専門員 合格者 7名



介護老人保健施設ゆうとびあ
係長 介護福祉士
岡田 修治



富益しあわせデイサービス
副主任 介護福祉士
福島 貴雄



セントラルローズガーデン
社会福祉士
佐々木 雄史



通所リハビリテーション真誠会
理学療法士
木村 さくら



通所リハビリテーション
弓浜ゆうとびあ 理学療法士
灘尾 涼子



通所リハビリテーション
弓浜ゆうとびあ 介護福祉士
二ノ宮 幸栄



ケアプランセンター弓浜真誠会
社会福祉主事
渡部 美鈴

介護支援専門員(ケアマネジャー)は、介護を必要とする人の相談や心身の状況に応じるとともに、適切なサービスを受けられるようにケアプランを作成したり、関係機関との連絡調整をする専門職です。

介護支援専門員の試験は毎年1回行われており、平成26年度には真誠会では7名が合格しました。新しく介護支援専門員となった7名は、これまで得た知識や技術を活かし、それぞれの職場で活躍していくと思います。

介護福祉士 合格者 9名



～合格者の声～

自分自身のレベルアップ、また今以上に仕事に対して責任を持つために介護福祉士を目指しました。取得をする為に外部研修への参加、また職場の仲間に協力していただき合格することができました。今後は、介護福祉士としてさらなる自覚責任を持ち、現場だけでなく地域への貢献などのより幅広い仕事ができるよう頑張りたいと思います。

米子ホスピタウン真誠会セントラルクリニック

日野原桜満開に

社会福祉法人 真誠会
医療法人 真誠会
理事長 小田 貢

医療法人真誠会 名誉理事長（聖路加メディカルセンター理事長）日野原先生の 100 歳記念に真誠会セントラルクリニックの庭に二本の枝垂桜を植えました。一本は日野原桜、そしてもう一本は小田桜と命名しました。植樹記念の時には日野原先生にも出席していただきとても喜んでいただきました。

しかしながら翌年には花のつきは貧弱でした。

そこで、樹木再生師 福楽善康さん（福楽商店 社長・倉吉）に土壌を改良してもらいました。その結果、一年一年花のつきがよくなり、今年は昨年に比べ 3 から 4 倍の花がつき見事な枝垂桜になりました。満開の日野原桜の写真は日野原先生にも送りました。



樹木再生師
株式会社 福楽商店
代表取締役 福楽善康 氏
平成26年10月都市緑化功労
国土交通大臣感謝状を受賞

また連日外来の患者さんにも楽しんでいただきました。

日野原桜、小田桜はこれから年々ますます多くの花をつけ外来、入院の患者さん、お見舞いのご家族、近隣の皆さんの心の支えになると思います。



外浜ホスピタウン4事業所合同桜まつり

（富益しあわせデイサービス・ふる里・GH青松庵・GH椿庵・桜庵）

桜満開の中で盛大に開催！！

4事業所合同の桜まつりは、桜満開の中、富益しあわせデイサービスホールにて、利用者・入居者様や地域の皆さま、地域ボランティアの皆さまなど100名余りの参加の中、盛大に開催。

開会、乾杯の後、美味しい桜弁当に舌鼓を打ちながら親しく歓談。そして、桜祭りステージでは、地域の皆さまの協力を得て、大正琴の演奏に始まり、ハーモニカ演奏や歌合唱・踊り披露など余興の楽しいひとときを楽しまれました。また、会場内では、バザー店、焼きそば店や抹茶サービスなどのおもてなしもあり、賑やかな桜まつりの一日となりました。

地域の皆さま、ご協力ありがとうございました。



地域の方々も一緒に
桜弁当で舌鼓！！



乾杯！富益地区自治
連合会 手島会長様



家族参加
一緒に桜笑顔！！！！